

株主・投資家のみなさまへ

第114期 第2四半期ビジネスレポート

2015年4月1日～2015年9月30日

証券コード: 6516

<http://www.sanyodenki.co.jp>

SANYO DENKI

114th



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

第114期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

当社グループでは、世界中のお客さまに均一で高品質な製品やサービスをお届けすることを目的に、昨年初頭より、グループ全体でグローバルな活動ができるような構造改革に着手いたしました。

さらに、世界中のグループ会社が日本の山洋電気と同等の機能を果たせるように、各拠点にテクニカルセンターを設立し、また最適な資材の現地調達を進め、グループ全体の統一された会計制度や、人材育成をはじめとした統一的な人事制度を構築いたしました。

また、5月には、インドの南部チェンナイに現地法人 SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED を設立いたしました。

新製品の開発においては、後述のとおり、性能・省エネ・信頼性などで業界 No.1 を誇る競争力のある多くの製品が、計画どおりに完成いたしました。

生産活動においては、SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. の第3工場で、電源装置、ステッピングモータ、サーボモータに加え、サーボアンプの生産を開始いたしました。

しかしながら、当第2四半期中の中国での景気の減速が急激に進み、当社の主要な市場のひとつである FA 業界に大きく影響し、事業の結果は後述のとおりとなりました。

当第2四半期末の配当金につきましては、前年同期に比べて1株あたり1円増配し、9円といたしました。

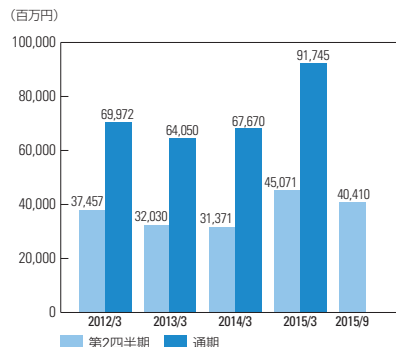
株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年12月

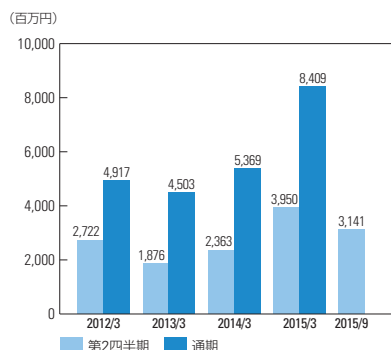
代表取締役兼社長 山本茂生

■ 財務ハイライト

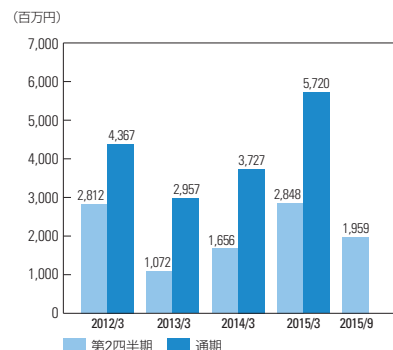
● 売上高



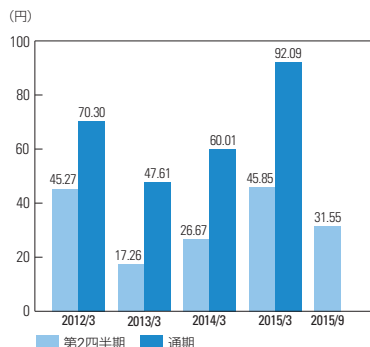
● 経常利益



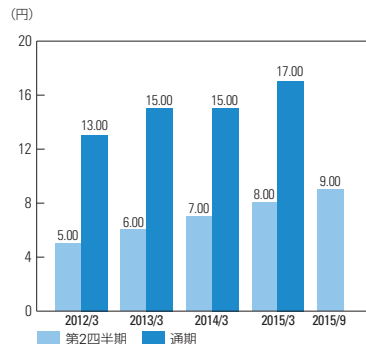
● 親会社株主に帰属する当期純利益



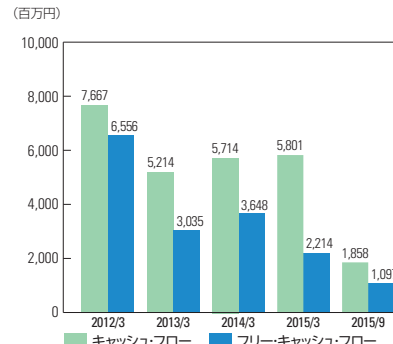
● 1株当たり当期純利益



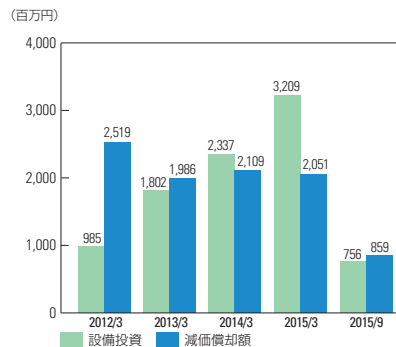
● 1株当たり配当金



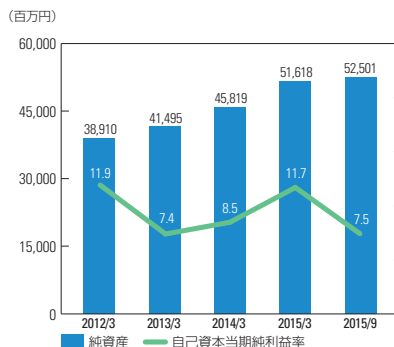
● キャッシュ・フロー/フリー・キャッシュ・フロー



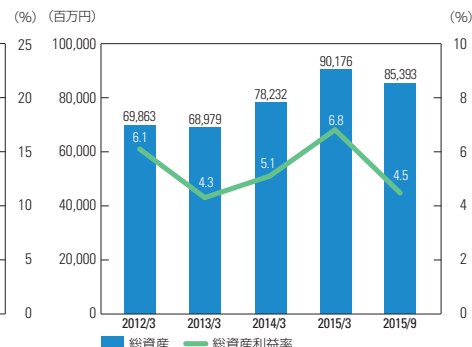
● 設備投資/減価償却額



● 純資産/自己資本当期純利益率



● 総資産/総資産利益率



※従来、連結財務諸表の作成にあたっては、海外連結子会社14社の3ヶ月前の財務諸表を使用し、連結会計上必要な調整をおこなっていましたが、連結財務諸表のより正確な把握を図るために、2015年3月期より海外連結子会社においても当社と同時期の財務諸表を使用する方法に変更しています。このため、前第2四半期実績には、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの3ヶ月間の業績も含まれています。

San Ace

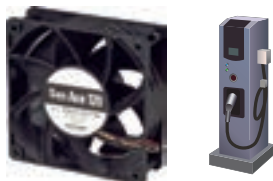
クーリングシステム製品

サンエースは、冷却ファン、ファンユニットなど、山洋電気のクーリングシステム製品を総称するブランドです。

例えば…電気自動車用急速充電器の冷却で使用
DC ファン

San Ace 120 9GV type

DC fan



SANUPS

パワーシステム製品

サナップスは、太陽光発電システム用パワーコンディショナ、無停電電源装置(UPS)、インバータ、エンジン発電装置など、山洋電気のパワーシステム製品を総称するブランドです。

例えば…通信機器の電源をバックアップ

常時インバータ方式 UPS

SANUPS A23C

ONLINE UPS



SANMOTION

サーボシステム製品

サンモーションは、サーボモータ・アンプ、ステッピングモータ・ドライバ、コントローラ、エンコーダなど、山洋電気のサーボシステム製品を総称するブランドです。

例えば…ロボットの関節軸に使用

AC サーボシステム

SANMOTION R

AC SERVO SYSTEMS



ACファン

● San Ace 9ADタイプ

業界トップ*1の低消費電力・高風量・高静圧を実現した、92mm角38mm厚のACファンです。
ファン内部で交流電力を直流電力に変換して駆動することで、DCファンのすぐれた性能をAC電力で得ることができます。
一般産業機械、FA関連機器、太陽光発電システム用パワーコンディショナなどの冷却に最適です。



高風量 長寿命 防水ファン

● San Ace 9WLタイプ

保護等級IP68*2の防水・防塵性能で、業界トップ*1の長寿命を実現した、40mm角28mm厚の高風量 長寿命 防水ファンです。
期待寿命は150,000時間(約17年間)で、通信中継局、太陽光発電システム用パワーコンディショナ、LED照明など、長期間の無保守運転が必要とされる機器の冷却に最適です。



高風量ファン

● San Ace 9GVタイプ

業界トップ*1の高風量・高静圧を実現した、140mm角38mm厚の高風量ファンです。
サーバ、通信装置、電源装置などは、高密度化が進み発熱量が大きくなっています。
大幅な風量・静圧の向上により、これらの装置も効果的に冷却できます。



高静圧ファン

● San Ace 9HVタイプ

業界トップ*1の高静圧を実現した、φ172mm×150mm×51mm厚の高静圧ファンです。
サーバ、ストレージ、通信装置、産業用インバータ、太陽光発電システム用パワーコンディショナなどに最適です。



リバーシブルフローファン

● San Ace 9RFタイプ

1台で両方向に送風ができるφ136mm×28mm厚のリバーシブルフローファンです。
両方向に送風するファンは、当社では初めての製品です。1台で風向きを切り替えられますので、ファンの台数を削減でき、設備のコスト削減と省スペースに貢献します。
住宅の換気や飲料用自販機、食品用ショーケース、LED照明、印刷機などに最適です。



太陽光発電システム用パワーコンディショナ

● SANUPS P73K

リチウムイオン蓄電池と組み合わせることで電力のピークカットができる、太陽光発電システム用パワーコンディショナです。
太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで、需要に合わせて電力を最適に制御します。



ステッピングドライバ

● クローズドループステッピングドライバ SANMOTION Model No.PB

クローズドループステッピングシステム「SANMOTION Model No.PB」のラインアップを拡充し、DC電源入力の4軸一体型ドライバを追加しました。
1台のドライバで、4軸のステッピングモータを駆動することができるため、省スペースで設置できます。
また、電源、入出力信号は1台分ですので、配線が少なくすみずみ。
半導体関連装置、食品関連機器、一般産業機械などに最適です。



DCサーボアンプ

● EtherCATインタフェース搭載 SANMOTION R ADVANCED MODEL 多軸サーボアンプ

サーボシステム「SANMOTION R ADVANCED MODEL」のラインアップを拡充し、EtherCATインタフェースを搭載した多軸サーボアンプを開発しました。
通信速度100Mbps、最短通信周期125μsecの高速通信により、位置・速度などの指令がより細分化され、装置の動作がスムーズになります。また、4軸一体型のため、小型で省スペースです。
チップマウント、半導体製造装置、搬送装置などに最適です。



※1 2015年11月現在。同サイズの産業用ファンとして。当社調べ。

※2 IEC（国際電気標準会議）規格IEC60529の試験方法による。

テクニカルセンターの本格稼働

世界8箇所（アメリカ、中国（上海・深圳）、台湾、シンガポール、タイ、ドイツ、フランス）にテクニカルセンターを開設しました。
海外における製品の研究・開発拠点として、地域のニーズに合った独自の製品開発や技術支援、製品のメンテナンスをおこないます。



ダブルチャンバー測定装置
（ファンの風量・静圧測定装置）



音響電波無響室



3Dプリンター

インド市場の開拓

2015年5月に、インド南部チェンナイにある、SANYO DENKI SINGAPORE PTE.LTD. INDIA LIAISON OFFICEを法人化し、子会社SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITEDを設立しました。

また11月には、インド北部デリー近郊のグルガオンに、営業拠点SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED GURGAON OFFICEを設立、営業を開始しました。

インド全域における拡販活動と技術支援をおこないます。



SANYO DENKI INDIA
PRIVATE LIMITED



SANYO DENKI INDIA
PRIVATE LIMITED
GURGAON OFFICE

SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.の生産品目拡大

SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 第3工場で、新たにサーボアンプの生産を開始しました。

3つの工場から成るSANYO DENKI PHILIPPINES, INC. では、効率のよい自動化ラインを活用し、クーリングシステム、パワーシステム、サーボシステム製品を生産しているほか、ファンの設計、開発もおこなっています。



自動化ライン

第50回 日本産業広告賞 新聞部門 シリーズ第2部 第3席を受賞

株式会社日刊工業新聞社主催の第50回日本産業広告賞において、新聞部門 シリーズ第2部 第3席を受賞いたしました。

今年度の受賞作品は、当社の製品ブランド「SANMOTION」「SANUPS」「San Ace」のシリーズ広告です。企画から制作までのすべてを当社広報部にて内製しました。



SANMOTION



SANUPS



San Ace

■ 営業概況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、設備投資の回復傾向は続いているものの力強さに欠けるものとなっており、また中国の景気減速の影響もあり、足踏み状態となりました。

そのような中で、当社グループの主要な販売市場である工作機械、ロボット、半導体製造装置などの設備産業業界においては、需要が伸び悩みました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は40,410百万円（前年同期比10.3%減）となり、連結営業利益は3,041百万円（前年同期比14.9%減）、連結経常利益は3,141百万円（前年同期比20.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,959百万円（前年同期比31.2%減）となりました。

受注高は40,228百万円（前年同期比16.6%減）、受注残高は12,544百万円（前年同期比26.1%減）となりました。

なお、従来、連結財務諸表の作成にあたっては、海外連結子会社14社の3ヶ月前の財務諸表を使用し、連結会計上必要な調整を行っていましたが、連結財務諸表のより正確な把握を図るために、2015年3月期より海外連結子会社においても当社と同時期の財務諸表を使用する方法に変更しています。

このため、前第2四半期実績には、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの3ヶ月間の業績も含まれています。

売上高^{*調整後}

404億10百万円 前年同期比**0.0%減**

営業利益^{*調整後}

30億41百万円 前年同期比**3.1%減**

経常利益^{*調整後}

31億41百万円 前年同期比**10.9%減**

親会社株主に帰属する四半期純利益^{*調整後}

19億59百万円 前年同期比**22.7%減**

受注高

402億28百万円 前年同期比**16.6%減**

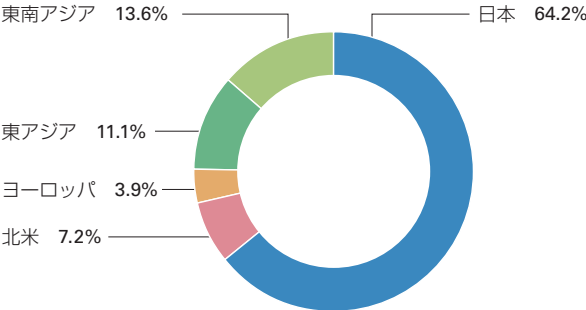
受注残高

125億44百万円 前年同期比**26.1%減**

※前第2四半期実績に含まれる海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの実績を除いた6ヶ月間の実績との比較を「調整後」として表示しています。

■ セグメント別の業績

セグメント別
売上高構成比率



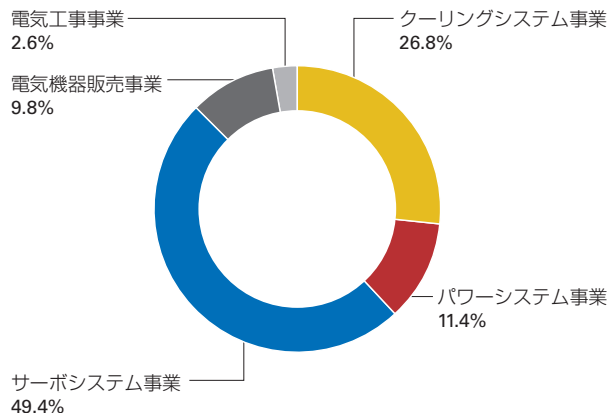
所在地別セグメント業績

日本	売上高 40,018 百万円	セグメント利益 2,175 百万円	日本には、当社および連結子会社の山洋工業株式会社、山洋電気テクノサービス株式会社があります。セグメント売上高は40,018百万円（前年同期比2.1%減）となり、セグメント利益は2,175百万円（前年同期比11.3%減）となりました。
北米	売上高 4,465 百万円	セグメント利益 176 百万円	北米には、連結子会社のSANYO DENKI AMERICA, INC.があります。セグメント売上高は4,465百万円（前年同期比17.6%減）となり、セグメント利益は176百万円（前年同期比13.4%減）となりました。
ヨーロッパ	売上高 2,434 百万円	セグメント利益 181 百万円	ヨーロッパには、連結子会社のSANYO DENKI EUROPE S.A.およびSANYO DENKI GERMANY GmbHがあります。セグメント売上高は2,434百万円（前年同期比26.2%減）となり、セグメント利益は181百万円（前年同期比47.2%減）となりました。
東アジア	売上高 6,930 百万円	セグメント利益 182 百万円	東アジアには、連結子会社の山洋電気（上海）貿易有限公司、山洋電気（香港）有限公司、台灣山洋電気股份有限公司、SANYO DENKI KOREA CO., LTD.および山洋電気（上海）貿易有限公司の子会社である上海山洋電気技術有限公司、山洋電気（香港）有限公司の子会社である山洋電気貿易（深圳）有限公司、中山市山洋電気有限公司、山洋電気精密機器維修（深圳）有限公司があります。セグメント売上高は6,930百万円（前年同期比18.4%減）となり、セグメント利益は182百万円（前年同期比46.0%減）となりました。
東南アジア	売上高 8,463 百万円	セグメント利益 223 百万円	東南アジアには、連結子会社のSANYO DENKI PHILIPPINES, INC., SANYO DENKI SINGAPORE PTE.LTD., SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED およびSANYO DENKI SINGAPORE PTE. LTD.の子会社であるSANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD., SANYO DENKI TECHNO SERVICE (SINGAPORE) PTE. LTD.があります。セグメント売上高は8,463百万円（前年同期比23.1%減）となり、セグメント利益は223百万円（前年同期比23.1%減）となりました。

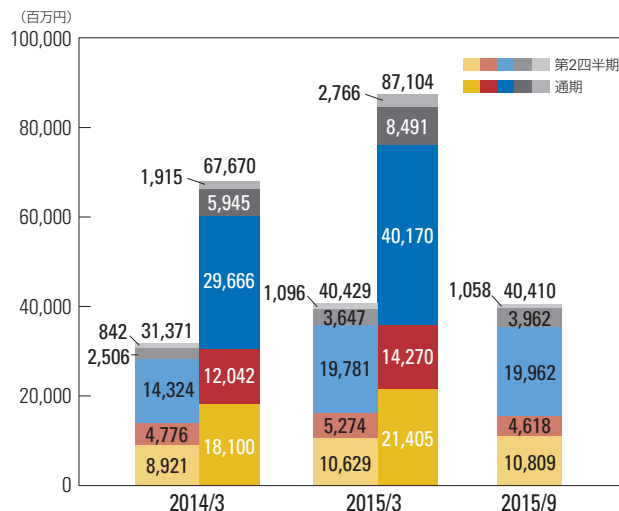
※上記「北米」から「東南アジア」のセグメント売上高、セグメント利益について、前第2四半期の経営成績に含まれていた海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの実績を差し引いた6ヶ月間の実績と当第2四半期の経営成績を比較した場合の前年同期比は以下のとおりです。
セグメント売上高 北米 25.6%増、ヨーロッパ 9.8%増、東アジア 7.5%増、東南アジア 15.5%増
セグメント利益 北米 50.0%増、ヨーロッパ 24.6%減、東アジア 30.0%減、東南アジア 60.1%増

■ 事業部門別の業績

事業部門別売上高構成比率



事業部門別売上高



※2015年3月期の売上高は、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの実績を除いた経営成績を表示しています。

クーリングシステム事業

クーリングシステム製品「San Ace」は、通信・ネットワーク業界向けの需要が増加しました。一方、環境業界では、太陽光発電システム用パワーコンディショナ向け、およびファクトリーオートメーション業界では、工作機械向けなどの需要が停滞し、受注が減少しました。

その結果、売上高は10,809百万円（前年同期比15.3%減）、受注高10,739百万円（前年同期比15.3%減）、受注残高2,862百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

パワーシステム事業

パワーシステム製品「SANUPS」は、太陽光発電の系統連系協議に長時間を要するケースが増えたことなどにより、パワーコンディショナの需要が停滞しました。一方、電源変換装置については、情報通信分野向けに加え、産業分野向けの需要も新たにに取り込み、堅調に推移しました。

その結果、売上高は4,618百万円（前年同期比13.3%減）、受注高6,114百万円（前年同期比8.3%減）、受注残高3,782百万円（前年同期比3.7%減）となりました。

サーボシステム事業

サーボシステム製品「SANMOTION」は、国内設備投資関連の需要が堅調に推移しました。一方、中国経済減速の影響による中国市場での大幅な需要の低迷に加え、国内の工作機械、ロボットメーカの中国向け需要が減少したこと、半導体製造装置向けの需要が停滞したことなどにより、受注が減少しました。

その結果、売上高は19,962百万円（前年同期比10.2%減）、受注高18,026百万円（前年同期比20.7%減）、受注残高4,294百万円（前年同期比17.4%減）となりました。

電気機器販売事業

産業用電気機器、制御機器および電機材料の販売は、通信、一般産業機器などは順調でしたが、工作機械、ロボット関連および医療機器関連向けが停滞気味でした。また、太陽光発電用制御盤の需要は前期に引き続き旺盛でした。

鉄鋼関連事業においては、老朽化した生産設備機器の更新の引き合いが多く、また、安定的な稼働を保つための重要設備の予備品などの需要も堅調でした。

なお、代理人として行う取引については、2015年3月期までは売上高および売上原価を総額で計上していましたが、当期の第1四半期より売上高と売上原価を相殺する純額表示へ変更しています。

その結果、売上高は3,962百万円（前年同期比8.6%増）、受注高4,138百万円（前年同期比15.4%減）、受注残高837百万円（前年同期比80.3%減）となりました。

電気工事業

製鉄所内の設備・補修工事は、生産設備の老朽化にともなう更新工事、および設備維持のための補修工事が計画どおり実施されました。

一方、太陽光発電設備、工事設計を含む一括施工の工事物件については、太陽光発電の買取価格の低下の影響により新規分の受注がやや減少しました。

その結果、売上高は1,058百万円（前年同期比3.5%減）、受注高1,208百万円（前年同期比5.8%減）、受注残高767百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

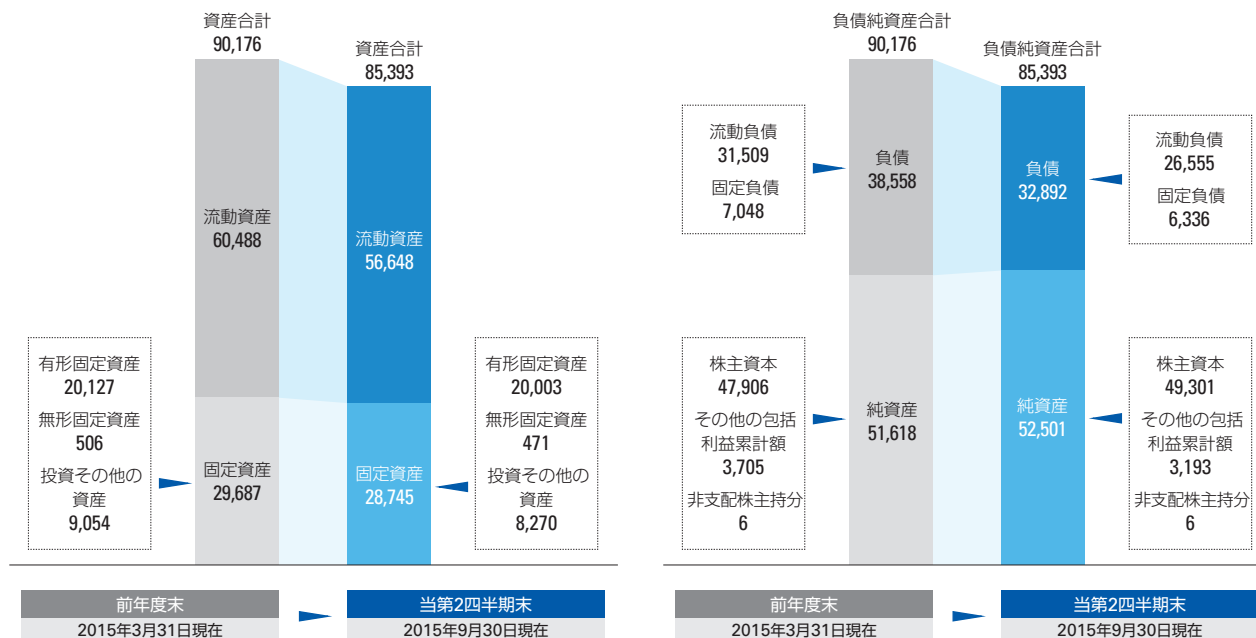
※上記「クーリングシステム事業」から「サーボシステム事業」の事業部門別の売上高、受注高について、前第2四半期の経営成績に含まれていた海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの実績を差し引いた6ヶ月間の実績と当第2四半期の経営成績を比較した場合の前年同期比は以下のとおりです。

売上高 クーリングシステム事業 1.7%増、パワーシステム事業 12.4%減、サーボシステム事業 0.9%増
受注高 クーリングシステム事業 1.8%増、パワーシステム事業 7.5%減、サーボシステム事業 11.1%減

■ 連結財務諸表

連結 貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）



資産・負債・純資産について

● 資産の部

総資産の主な変動要因は、受取手形及び売掛金の減少3,695百万円、投資有価証券の減少775百万円、現金及び預金の減少553百万円によるものです。

● 負債の部

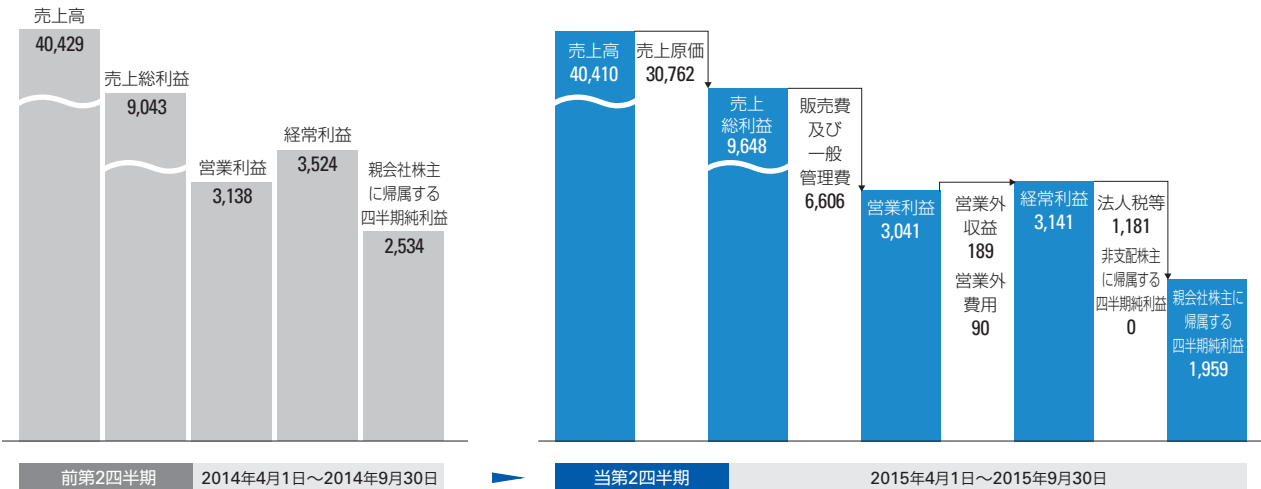
負債の主な変動要因は、支払手形及び買掛金の減少2,176百万円、未払法人税等の減少1,355百万円、長期借入金の減少399百万円によるものです。

● 純資産の部

純資産の主な変動要因は、利益剰余金の増加1,400百万円、その他有価証券評価差額金の減少525百万円、退職給付に係る調整累計額の増加100百万円によるものです。

連結 第2四半期損益計算書（要旨）

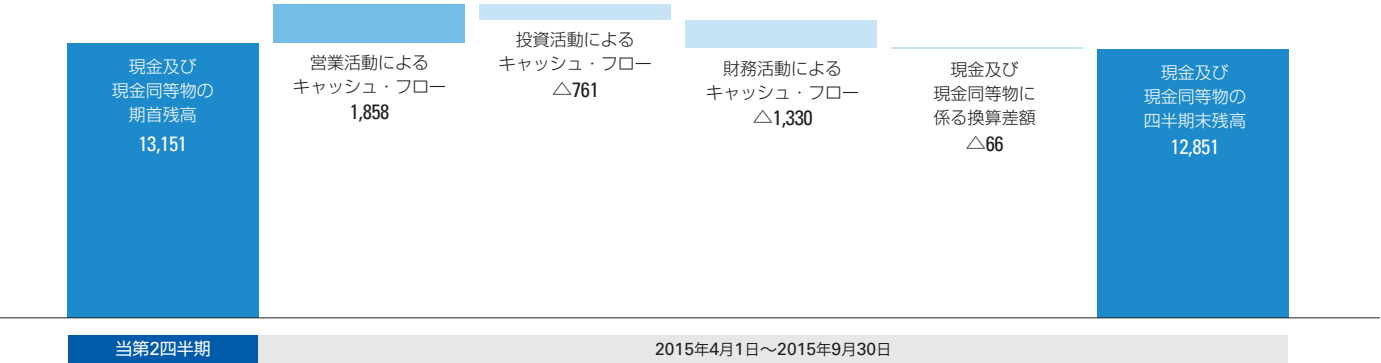
（単位：百万円）



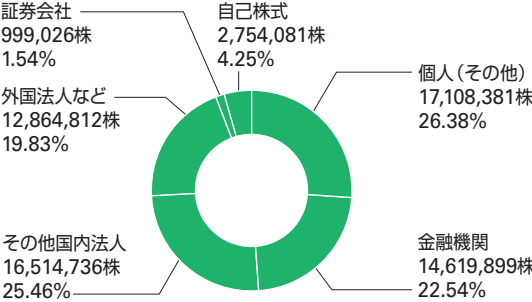
※前第2四半期のグラフは、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの実績を除いた6ヶ月間の経営成績を表示しています。

連結 第2四半期キャッシュ・フロー計算書（要旨）

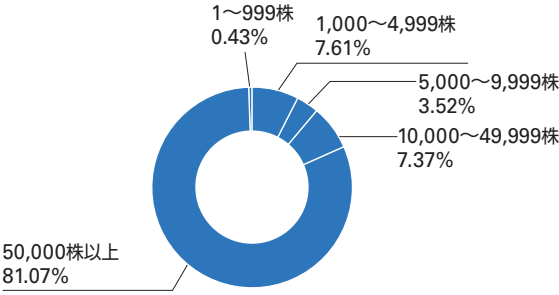
（単位：百万円）



● 所有者別株式分布状況



● 所有数別株式分布状況



株式総数および株主数 (2015年9月30日現在)

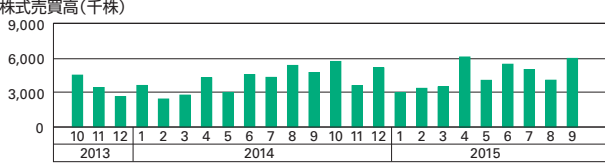
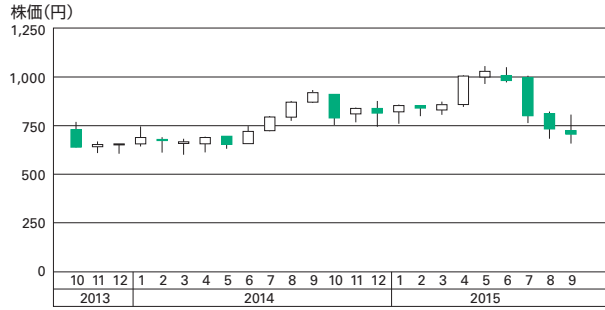
発行可能株式総数	250,000,000株
発行済株式の総数	64,860,935株
当第2四半期末株主数	4,926名

大株主 (2015年9月30日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
協同興業株式会社	9,229	14.23
株式会社みずほ銀行	2,274	3.51
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	2,126	3.28
東京海上日動火災保険株式会社	1,913	2.95
山洋開発株式会社	1,594	2.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,511	2.33
日本生命保険相互会社	1,339	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,301	2.01
株式会社八十二銀行	975	1.50
三井住友信託銀行株式会社	970	1.50

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式2,754千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

株価・出来高の推移 (2015年9月30日まで)



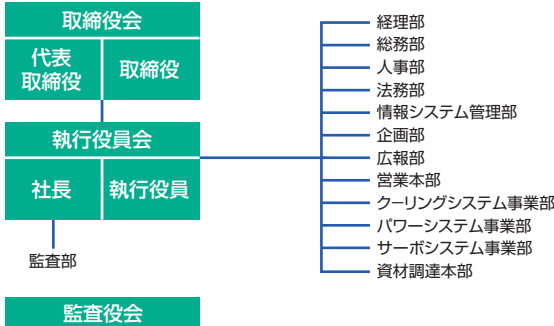
会社概要		(2015年9月30日現在)
会社名	山洋電気株式会社	
創業	1927年8月	
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020	
資本金	99億円	
社員数	3,041名（グループ全体）	

取締役および監査役		(2015年9月30日現在)
※代表取締役	山本	茂生
※取締役	田村	薫
※取締役	児玉	展全
※取締役	松本	吉正
取締役	三宅	雄一郎
取締役	鈴木	徹
取締役	諏訪	宏
常勤監査役	畑中	佐近
常勤監査役	天野	文雄
監査役	小倉	久幸
監査役	山本	武

※印の取締役は、執行役員を兼務

執行役員		(2015年9月30日現在)
社長	山本	茂生
専務執行役員	資材調達担当，資材調達本部本部長	田村 薫
専務執行役員	技術開発担当，クーリングシステム事業部事業部長	児玉 展全
常務執行役員	営業部門担当，営業本部本部長，海外販売拠点担当	松本 吉正
常務執行役員	品質管理担当，パワーシステム事業部事業部長	宮田 繁二郎
執行役員	生産担当，生産技術担当，SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 取締役会長	北沢 一幸
執行役員	営業本部副本部長，パワーシステムビジネス担当	小泉 泰之
執行役員	管理部門担当，企画部部長，経理部部長	田母神 観一郎
執行役員	上田事業所所長，山洋電気テクノサービス株式会社代表取締役社長	北村 恵一
執行役員	サーボシステム事業部事業部長	馬場 俊彦

組織図 (2015年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ

特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

旧山洋工業株式会社の株主さまは、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社〔電話 0120-49-7009 (フリーダイヤル) 〕へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス

《日本証券代行》<http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

《東京証券代行》<http://www.tosyodai.co.jp/holder/listed/procedure/index.html>

(一部の用紙は、お手持ちのプリンターで印刷できます。)

当社「IR情報」ホームページアドレス

<http://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1
電話 (03) 5927 1020
ホームページ <http://www.sanyodenki.co.jp>